

# 2017年度 上半期業績の概要

2017年11月24日

 三井生命保険株式会社

1. 決算のポイント	・・・ P 1
2. 収支の状況	・・・ P 2
3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	・・・ P 3
4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕	・・・ P 4
5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕	・・・ P 5
6. 損益計算書	・・・ P 6
7. 貸借対照表・健全性	・・・ P 7
8. 有価証券の含み損益	・・・ P 8

- 2017年度上半期決算は、増収・増益
  - ✓ 保険料等収入は、外貨建保険商品の販売好調により増収
  - ✓ 基礎利益は、費差益に転じたこと、逆ざや額が改善したこと、危険差益が増加したことにより増益
  
- 保険成績
  - ✓ 新契約業績は、年換算保険料・新契約高は増加、件数は減少
  - ✓ 保有契約業績は、年換算保険料は増加、保有契約高・件数は減少  
中期経営計画において経営目標として掲げている「定額保険の保有契約年換算保険料の反転」については、昨年度末に前倒しで実現した反転基調を継続
  
- 健全性を示すソルベンシー・マージン比率は、前年度末から42.5ポイント増加の957.0%

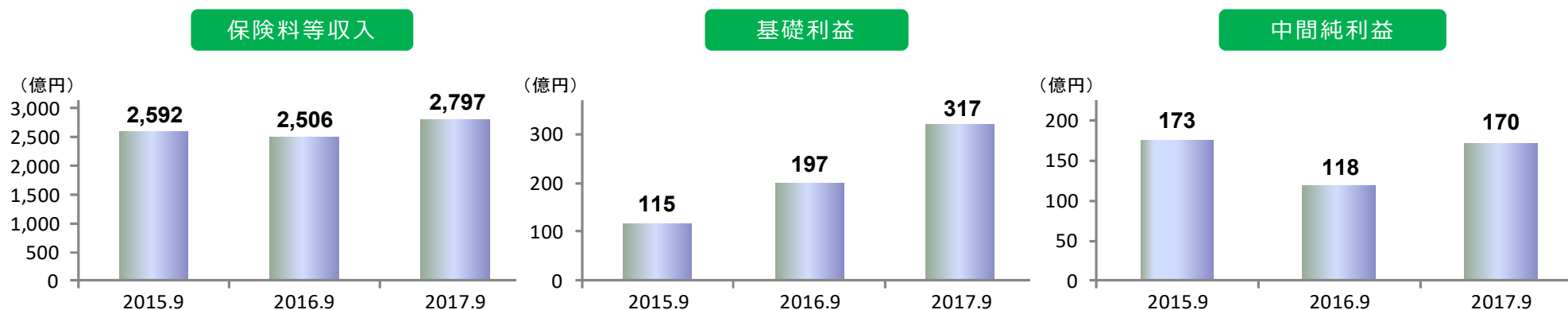
## 2. 収支の状況

- 保険料等収入は、外貨建保険商品の販売が好調に推移したことから、前年同期比11.6%増の2,797億円。
- 基礎利益は、費差益に転じたこと、逆ざや額が改善したこと、危険差益が増加したことにより、前年同期比60.5%増の317億円。
- 中間純利益は、基礎利益が増加したことにより、前年同期比43.7%増の170億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2016年度 上半期	2017年度 上半期	
		2017年度 上半期	前年同期比 増減率
保険料等収入	2,506	2,797	+ 11.6
基礎利益	197	317	+ 60.5
逆ざや額	▲ 212	▲ 162	△ 23.3
費差損益	▲ 13	30	—
危険差益	423	449	+ 6.1
中間純利益	118	170	+ 43.7

(注) 増減率の“△”は改善。



### 3. 新契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 新契約件数は、前年同期比5.2%減の10万9千件。2016年4月の「大樹セレクト」新発売に伴い、昨年、大幅伸展したことの反動により減少。
- 新契約高・新契約年換算保険料は外貨建保険商品の販売が好調に推移したことから、それぞれ前年同期比4.5%増の4,495億円・同17.1%増の189億円となった。

(単位:千件、億円、%)

区 分	2016年度 上半期	2017年度 上半期	前年同期比 増減率
新契約件数	115	109	▲ 5.2
新契約高	4,299	4,495	+ 4.5
新契約年換算保険料	162	189	+ 17.1

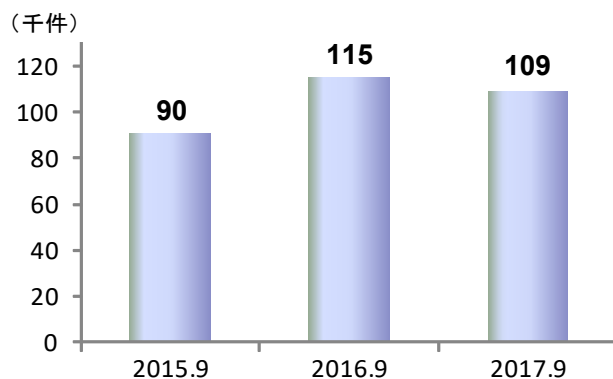
(注)「新契約件数」は、新契約に転換後契約を加えた数値。

#### <参考>

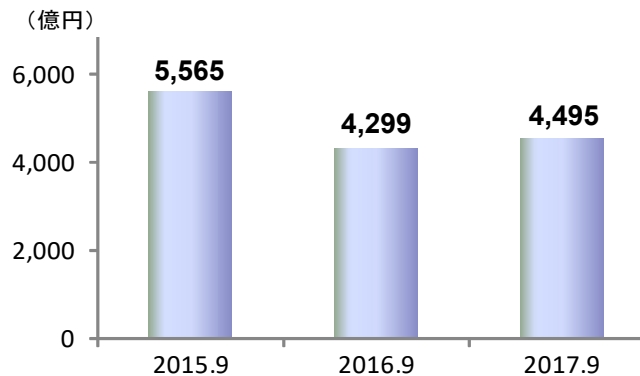
日本生命から商品供給を受けて2017年1月より販売している「遡増定期保険 経営サポート」を含んだ数値。

新契約年換算保険料	162	200	+ 23.5
-----------	-----	-----	--------

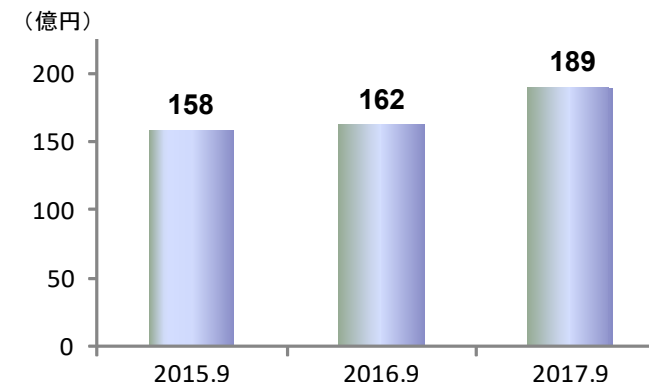
新契約件数



新契約高



新契約年換算保険料



## 4. 保有契約の状況〔個人保険＋個人年金保険〕

- 保有契約年換算保険料は、外貨建保険商品の販売が好調だったことから、前年度末比0.1%増の4,977億円。
- 反転を経営目標に掲げている定額保険の保有契約年換算保険料は、前年度末比0.9%増の4,222億円となり、昨年度末に前倒しで実現した反転基調を継続。

(単位:千件、億円、%)

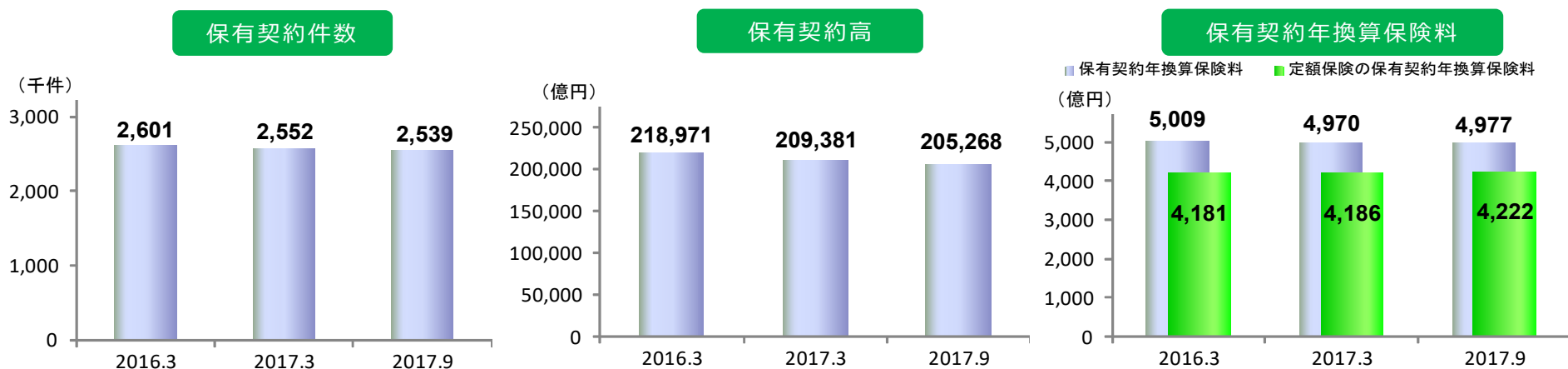
区 分	2016年度末	2017年度 上半期末	前年度末比
			増減率
保有契約件数	2,552	2,539	▲ 0.5
保有契約高	209,381	205,268	▲ 2.0
保有契約年換算保険料	4,970	4,977	+ 0.1
定額保険の保有契約年換算保険料	4,186	4,222	+ 0.9

(注)「定額保険の保有契約年換算保険料」は、年金開始後の契約を除く。

<参考>

日本生命から商品供給を受けて2017年1月より販売している「逡増定期保険 経営サポート」を含んだ数値。

定額保険の保有契約年換算保険料	4,204	4,251	+ 1.1
-----------------	-------	-------	-------



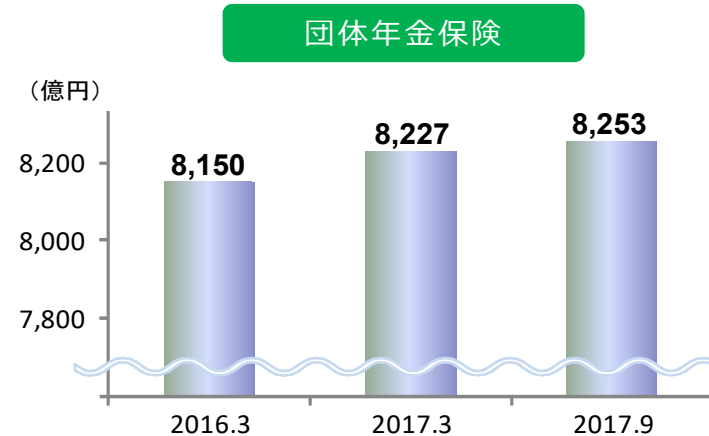
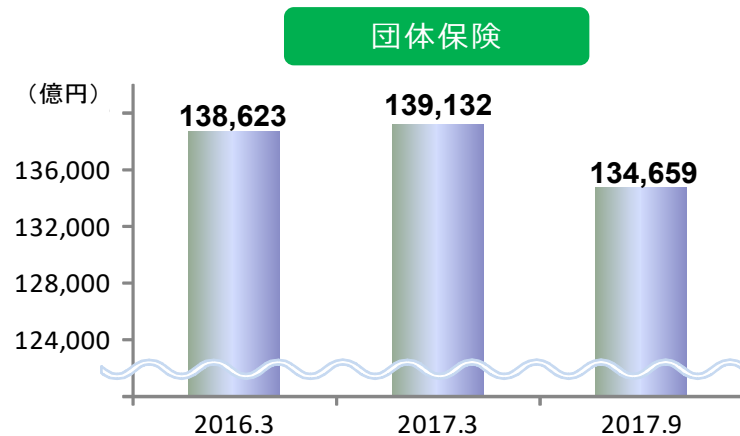
## 5. 保有契約の状況〔団体保険・団体年金保険〕

- 団体保険は、総合福祉団体定期保険の販売が好調に推移した一方、団体信用生命保険の保有契約高が減少したことから、前年度末比3.2%減の1兆3,659億円。
- 団体年金保険は、前年度末比0.3%増の8,253億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2016年度末	2017年度 上半期末	前年度末比 増減率
団体保険 (保有契約高)	139,132	134,659	▲ 3.2
団体年金保険 (保有契約高)	8,227	8,253	+ 0.3
一般勘定	7,323	7,291	▲ 0.4
特別勘定	904	962	+ 6.4

(注) 団体年金保険の保有契約高は、責任準備金の金額。



## 6. 損益計算書

- 保険料等収入は、外貨建保険商品の販売が好調に推移したことから、前年同期比 11.6% 増の 2,797 億円。
- 中間純利益は、基礎利益が増加したことにより、前年同期比 43.7% 増の 170 億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2016年度 上半期	2017年度 上半期	前年同期比
			増減率
経常収益	4,898	4,558	▲ 7.0
保険料等収入	2,506	2,797	+ 11.6
資産運用収益	1,762	1,524	▲ 13.5
経常費用	4,644	4,237	▲ 8.7
保険金等支払金	2,737	2,909	+ 6.3
資産運用費用	1,292	714	▲ 44.7
事業費	472	459	▲ 2.8
経常利益	254	320	+ 25.7
中間純利益	118	170	+ 43.7



## 7. 貸借対照表・健全性

■ ソルベンシー・マージン比率は、株価上昇に伴うその他有価証券の含み益の増加や内部留保の積み増し等により、前年度末から42.5ポイント増加し、957.0%。

■ 実質純資産額も同様の要因により、前年度末比4.4%増の1兆1,556億円。

(単位: 億円、%)

区 分	2016年度末	2017年度 上半期末	前年度末比 増減率
総資産	70,958	72,831	+ 2.6
有価証券	52,534	53,940	+ 2.7
貸付金	11,989	11,285	▲ 5.9
有形固定資産	2,429	2,405	▲ 1.0
負債	66,182	67,642	+ 2.2
保険契約準備金	60,759	60,627	▲ 0.2
責任準備金	59,750	59,658	▲ 0.2
価格変動準備金	189	203	+ 7.1
純資産	4,775	5,189	+ 8.7
ソルベンシー・マージン比率	914.5%	957.0%	+ 42.5 ポイント*
実質純資産額	11,069	11,556	+ 4.4
実質純資産比率	16.2%	16.4%	+ 0.2 ポイント*

(注1) 「実質純資産比率」=「実質純資産額」÷「一般勘定資産」。

(注2) \* のポイントは前年度末との差。

## 8. 有価証券の含み損益

- 国内株式は、株価の上昇により、前年度末から187億円増加。
- 外国証券は、海外金利の低下や株価上昇により、前年度末から136億円増加。
- 有価証券全体の含み損益は、前年度末から287億円増加し、6,658億円。

(単位: 億円)

区 分	2016年度末	2017年度 上半期末	前年度末比
			増減額
時価のある有価証券の含み益	6,371	6,658	+ 287
国内公社債	4,655	4,579	▲ 75
国内株式	1,623	1,810	+ 187
外国証券	55	191	+ 136
その他	37	77	+ 39

時価のある有価証券の含み益

